

第6学年2組 国語科学習指導案

授業者 溝上 剛道

1 単元名 述べ方の工夫を捉えて読み、深掘りコラム『日本文化・真の魅力に迫る』を書こう (『鳥獣戯画』を読む) 光村図書6年、「アニメーションと漫画のルーツ? 鳥獣戯画について紹介」Webコラム)

読み書き複合単元では、述べ方の工夫を捉えて読み、それを生かして書くという単元展開が一般的である。しかし、前半の「読む」では、後半の「書く」に向けてそのコツを確認するような学習に陥ることも少なくない。また、そもそも読むことに困難さや苦手意識をもつ子どもにとっては、「述べ方の工夫」に対して学習意欲が向きづらい傾向もある。

本学級の子どもたちに目を向けると、読み書き共に実態差が大きく、文章を読む土台に立てなかったり、書き出しから時間を要したりする子どもが複数いる。そのような子どもたちに、本単元では「深掘りコラム『日本文化・真の魅力』を書く見通しをもたせた上で、上記の二つの学習材に出合わせる。二つの文章を比較する中で、それぞれのよさに目を向けながら、自分のコラム執筆に向けて述べ方の工夫を見いだし、行ってほしいと願う。

そこで本実践では「①理想のコラム像を思い描き、そのために解決すべき問いを立てる活動」「②エラーモデルではなくグッドモデルを比較し、それぞれのよさを捉える活動」の2点をポイントとして単元を構想する。「こんなコラムにしたい」という思いをもち、その実現に向けて二つの文章を比べながら目的的に読んでいくプロセスを大切にすることで、コツの“確認”ではなく、一人一人がそのコツを“見い出す”学びを生み出していく。

2 単元について

(1) 本単元では上記の二つの文章を取り上げ、目的に応じて論の進め方や表現の工夫を捉える力、それらを生かしながら事実と感想、意見とを区別して書く力の育成をねらう。

第1学習材『鳥獣戯画』を読むは、鳥獣戯画の絵を取り上げながら『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけではなく、人類の宝なのだ。」という結論に向かって論が展開される論説文である。「述べ方」をいう視点から分析すると、実況中継風の書き出しや文末表現、読み手へ呼びかけるような語り口等、様々な表現の工夫が見られる。文章構成に目を向けると、1枚目の絵の素晴らしさやおもしろさを述べた①～③段落、1・2枚目の関係を述べた④段落、2枚目をさらに詳細に評価した⑤～⑦段落、鳥獣戯画の歴史的価値について述べた⑧段落というように、いわばアップとルーズを繰り返しながら論が展開されている。この第1学習材と共に、同じく鳥獣戯画が取り上げられたWebコラムを第2学習材として取り上げ、両者を比較する活動をしくむことで、述べ方の工夫に焦点化して読むことへと誘っていく。

(2) 子どもたちは、5月に筆者の主張や意図を捉えて読む学習(学習材「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」)を、5年時にグラフや表を用いて書く学習を経験している。本単元で論展開や表現の工夫を捉えて読み、それをいかして書く学習は、「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」における要旨を捉え自分の考えをまとめる学習や、「大切な言葉」における自分の考えが伝わるように表現を工夫する学習へとつながっていく。

(3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査対象：附属小6年2組33名)

① 説明文の学習に対しては、大多数の子どもが「読むのが嫌だ」と感じている。その理由としては、前学年の説明文単元で取り組んだ「段落分け」や「表にまとめる」といった活動にどんな意味があるのかが分からなかったことを挙げる子どもが多かった。読むことへの目的意識を高めたり、説明内容そのものに対する興味・関心を高めたりする必要がある。

② 6年生で取り組んだ文学単元では、一人での音読に時間を要する子どもが5名ほどいた。また、長文、短文ともに、書くことに要する時間、書く内容に大きな実態差がある。

3 単元の目標

- (1) 事実や筆者の評価を表す言葉、文末表現などの工夫に気付くことができる。
- (2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- (3) 主張を伝えるために、筆者がどんな論の進め方をしているかを読み取ることができる。
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

4 指導計画（11時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 ・ 2	1 理想のコラム像を思い描き、その実現のための問いを立てる。	○「外国人の日本に対する誤解7選」を提示した上で、その本当の姿や真の魅力を語れるかを問い、テーマに対する興味・関心を高める。 ○モデル文を提示した上で、どんなコラムにしたいか(したくないか)を出し合わせる。それを基に、理想のコラムづくりに向けて自分が解決すべき問いを立てる場を設定し、読むことへの目的意識を高められるようにする。	
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	2 述べ方の工夫を読み取る。 (1) 二つの文章のよさを話し合う。 (2) 表現の工夫を比べる。 (3) 論展開の工夫を比べる。 (4) 二つの文章の述べ方の工夫をまとめる。 ※並行読書に取り組んでいく。	○問いの分類カードを活用しながらそれぞれの良さを整理し、述べ方の工夫を比較する見通しをもてるようにする。(本時3/11) ○述べ方の工夫の比較材料となるように、タブレット端末を活用し、既習の説明文をいつでもさかのぼって見返すことができるようにしておく。 ○「普通だったら～」のように一般的な述べ方と比較した考え方等を全体で価値付け、表現の工夫を見いだす視点を共有していく。 ○(2)～(4)は一方的に進めるのではなく、各時間で「本日発見!深掘りコラムにいかしたい述べ方のワザ」として振り返る場を設ける。	【知】 評価を表す言葉、文末の工夫等に気付いている。(振り返り) 【思】 主張に繋げる論展開の工夫を捉えている。(述べ方のワザまとめ) 【主】 粘り強く述べ方の工夫を捉えようとしている。(ワザのまとめ、国語日記)
7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11	3 述べ方を工夫して書く。 (1) 伝えたいことを決める。 (2) (1)が伝わる文章構成を練る。 (3) 表現を工夫して書く。 (4) 推敲する。 4 互いの文章を読み合い、単元の学びを振り返る。	○集めた材料を付箋に書き出した上で、仮の主張を書くようにする。その上で、付箋を並べ替えながら主張が効果的に伝わる文章構成についてグループ等で練り合う場を設定する。 ○(1)～(4)は個々の状況に応じて行き来しながら取り組めるよう、大まかな計画のみ共有しておく。その際、各時間の冒頭で「未来日記」(振り返りの予想版)を書くようにし、前時の状況を基に見通しを立てられるようにする。 ○述べ方の工夫を視点に特に良かった作品や変容したところを価値付けをすることで、力の伸びを実感できるようにする。	【思】 事実と感想、意見とを区別し、考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(コラム記事) 【主】 読むことの学習をいかし、粘り強く述べ方を工夫している。(下書きへの書き込み、振り返り)

5 本時の学習（3 / 1 1 時）

(1) 目標

「鳥獣戯画」に関する二つの文章を読み、どちらのどんなところがコラムに生かせるかを話し合う活動を通して、述べ方の工夫を比べながら読んでいく見通しをもつことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
1 0	1 前時の学習を振り返り、「『鳥獣戯画』を読む」の範読を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 僕は「これ読みたい」と思われるようなコラムを書きたいな。そのためには、どんな工夫ができるだろう。 ○ 私は呼びかけが大切だと思うけど、どんな呼びかけが良いかは、まだ分からないな。 ○ どちらも似ているけれど、「『鳥獣戯画』を読む」(以下 A)の方が、読んでいて何だか面白いな。
5	2 どちらが自分の理想のコラムに近いかを選び、本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ すっきりまとまっているのは、「アニメーションや漫画のルーツ？鳥獣戯画を紹介」(以下 B)の方だな。見出しがあるからかな。 ○ 僕は、どちらかという「『鳥獣戯画』を読む」の方が良いと思うけど、それぞれどんなところが自分に取り入れられそうだろう。
2 0	3 各自が選んだ理由を基に、二つの文章のそれぞれのよさについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私は A が良いと思うな。だって、呼びかけや問いかけがたくさんあるでしょ。 ○ 呼びかけや問いかけだったら、Bにもあるよ。 ○ どちらも良いけど、Aの方が「ぱっとめくってごらん。」みたいに実際にやってみたくなるところがあるね。 ○ 初めの「はっけよい、のこった。」のところは、何だか説明文らしくないよね。何だかそこが面白い。 ○ Bは、見出しが付いていてまとまりがわかりやすいと思う。文章構成もはっきりするし。 ○ 題名も Bの方が具体的で良いと思うな。Aは何だか普通というか… ○ でも、絵だったら普通「読む」ではなくて「見る」じゃないかな。なんで「読む」なんだろう。
1 0	4 本時の学習を振り返り、「国語日記」を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の国語日記の題名は「工夫がいっぱい」にしよう。どちらの文章にも、自分のコラムに生かせそうな見出しや文章構成の工夫がたくさんあったな。 ○ 私は「表現の工夫」を題名にして、AとBを比べてわかったコツを書こうかな。 ○ 題名は Bの方が良さそうと思っていたけど、Aも何だか気になってきたな。



子どもたちは、前時までに Web コラム「アニメーションと漫画のルーツ？鳥獣戯画について紹介」を読んだ上で、それぞれが考える「理想のコラム」を基に「深掘りコラムのための問い」を立てています。本時では、「『鳥獣戯画』を読む」を提示し、二つの文章のそれぞれの良さを話し合いながら、読み書き関連学習の見通しをもてるようにしていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援（発問・指示，教材・教具，評価）

- 前時までに各自が考えていた「理想のコラム」と「深掘りコラムのための問い」を確かめた上で、『鳥獣戯画』を読む」という題名を提示する。その際、前時に読んだ「アニメーションと漫画のルーツ？鳥獣戯画について紹介」を想起させ、題名読みをしながら予想される二つの文章の違いについて発言を促すことで、どちらが自分の理想に近いかを考えながら読む見通しをもてるようにする。

- 自分の理想のコラムに近い方にネームプレートを貼らせることで、お互いの立場がわかるようにする。その上で、「この後どうすると自分たちが書くコラムに生かせる場所が見つかりそうか」を問い、次のような課題を設定する。

【教材・教具】

- 問いの分類カード
- 拡大教材文
- ネームプレート
- 全文プリント

どちらのどんなところが、自分たちのコラムに生かせるだろう。

- そのまま全体で話し合いたいのか、一旦グループで話し合いたいのかを選ばせる。グループで話したい子どもが多い場合は、その後の全体の場でどんな発表ができるかよいかを問い、自分の考えを発表するだけでなく、友達の考えを確かめながら聞く見通しをもたせる。
- 残り数分になったら、その時点で発表できる自信がある子どもに挙手するよう指示する。その際、逆に挙手しなかった子どもを取り上げ、残りの時間を利用して、各グループで話し合った内容を再度確かめるように促す。
- 全体では、一人の発言に対して、その他の子どもの反応を待つ。反応があまりない場合には、発言の内容を聞き取れたか、聞いてどんなことを考えていたかを問い、互いのことばを確かめながら話し合いを進めていくことで、「聴く・語る」関係をつくっていく。
- 子どもが根拠に挙げた叙述を拡大教材文で確かめつつ、それぞれの良さを「表現の工夫」「文章構成」などの視点から対比的に板書していくことで、「自分たちのコラムに生かしたいところ」の見通しをもてるようにする。
- 「題名」という視点での発言が出ない場合には、本時の導入での題名読みに立ち返らせた上で「深掘りコラムのための問い」を取り上げ、どちらの題名がその問いの解決につながりそうかを話し合わせる。
- 振り返りは、ペアで本時の課題に対して考えが広がったり深まったりしたところを確かめ合う場を設けた上で、記述による振り返り（国語日記）に取り組ませる。
- ペアで国語日記をどんな題名にするかから話し合わせた上で、数名を取り上げる。その際、似た題名にしようと考えている子どもに挙手を促したり、国語日記に書こうと思っていることについての発言を促したりすることで、一人一人が振り返りを書く見通しをもてるようにする。

【評価】

コラムを書くためのコツを捉えることを意識して、二つの文章を読み比べようとしている。（振り返りの記述）